

令和7年度 奈良県食育推進会議 会議の概要

日 時：令和7年7月30日（水）14:00～15:40

場 所：リガーレ春日野 1階天平の間

出席者：上地委員、植村委員、岡本委員、合田委員、白樫委員、富岡委員、西村委員、細見委員、松井委員、松田委員、山下委員（11名）
足利委員、山田委員、山下知事欠席

議 題

（1）第4期奈良県食育推進計画の推進について

- ① 指標の進捗状況と未設定分について（追加分）
- ② 令和6年度及び令和7年度 食育の取り組み状況について
- ③ その他

概 要

- 医療政策局 通山局長より挨拶
- 上地委員を議長として指名
- 議事要旨（以下のとおり）

会議成立の確認

〈事務局〉

本会議の委員は14名であり、本日は11名の出席となりますので、奈良県食育推進会議条例第5条第2項の要件を満たしており、本会議は成立していることをご報告させていただきます。

（1）第4期奈良県食育推進計画の推進について

① 指標の進捗状況と未設定分について（追加分）

〈事務局説明〉

（資料1-1）第4期奈良県食育推進計画の評価指標の進捗状況の報告。

（資料1-2）第4期食育推進計画の策定時に目標値が決定できていない指標をご審議いただきたい。

〈上地議長〉

指標を設定するものとして、11番「地域等で共食している人の割合」「災害時の備蓄割合」の説明について何かご意見等ございますでしょうか。

ないようでしたら、事務局のご提案をご承認いただいでよろしいでしょうか。

（承認される）

では、35 番の「災害時の非常用食料等を備蓄している人の割合」については、次の会議で現状値及び目標値を決定するということでしたので、ご承認いただけますでしょうか。

（承認される）

② 令和 6 年度及び令和 7 年度 食育の取り組み状況について

〈事務局説明〉

（資料 2-1 を用いて説明）

〈上地議長〉

事務局のご説明につきまして、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

また委員の所属の取り組みについて、不足等ございましたら追加でご説明ください。

〈松井委員〉

全国健康保険協会奈良支部の松井です。

働き盛り世代の食育の推進として健診をまず受けていただき、異常がある方はお医者さんにかかっているのですが、グレーゾーンの方に関して保健指導を行い、その中で食事指導もしております。まず健診を受けていただくために、企業に「職場まるごと健康宣言」を通して健康診断を積極的に受けていただく取り組みをしております。令和 7 年 3 月で 1,353 事業者、現在 6 月末で 1,509 社と順調に増えています。

また、健康講座を実施しており、食に関する講座も 3 つ行っています。

働き盛り世代への取り組みとしては、職場まるごと健康宣言を増やしていこうと考えています。

〈上地議長〉

ありがとうございます。その他ご意見補足等ございますでしょうか。感想でも結構です。

〈植村委員〉

学校給食は教育委員会の体育健康課が主管で、本会は支援を行っています。体育健康課では、来年 1 月に「カレーの日」を設定し、地元の特色を生かしたカレーを作る事業が実施されます。それを支援する形で、本会は奈良県産の小麦を使ったカレールウ、奈良県産の大豆を使った大豆水煮を安価で提供します。

5 年毎に栄養教諭の先生方が小学 5 年生と中学 2 年生を対象に、食生活の実態調査を実施しており、直近では令和 5 年度に実施しました。令和 6 年度は、その結果を集約しリーフレットを作成しました。その結果をもとに学校給食栄養研究会等で研修を行いました。子どもが心身とも健康であるためには栄養が一番大切であるという認識のもと食育を推進しています。

〈上地議長〉

食生活実態調査の課題等あれば教えてください。以前と比べてどうかも教えてください。

〈植村委員〉

朝食欠食ですかね。やせたいから食べないとか、そのようなデータもあります。不定愁訴の

児童の中には朝食を食べていない人もいます。

〈上地議長〉

今まで朝食を食べない理由に「時間がないから」とか、「起きられない」、「食欲がない」が多かったように思うのですが、私もある市町村にかかわらせていただいておりますが、アンケートの聞き方によっても回答が異なります。今回、奈良県では、「毎日食べない」と回答する児童生徒の割合という数字がだいたい数%で載っています。ある市町村では、「ほとんど毎日食べますか」という聞き方をすると、小学生が90%台に対し、中学生が65%台でした。65%はすごく低いので、その市町村では問題になりました。理由として、コロナ禍でタブレットを使っており、夜寝る時間が遅いという意見がPTAからあり、朝起きられず食べる時間がないため、数字が悪くなったという話があったので、質問させていただきました。事務局で、今回の計画前と比べて悪くなったと把握しているものはありますか。

〈事務局〉(体育健康課 新子課長)

朝食を食べない理由として、「タブレットをよく見る」、「睡眠時間が少なくなった」という回答があることを把握しています。同様に全国体力運動能力・運動習慣等調査でも、睡眠時間やタブレットを見るスクリーンタイムの部分で奈良県は全国平均を上回っている結果が出ています。

〈上地議長〉

それ以外に何かご意見等ありますでしょうか。

〈合田委員〉

食育の取り組み状況に関して、各実施機関が地域で同じようなことをされていると感じましたので、横の連携を取りたいと思いました。例えば、先ほど協会けんぽの方から、働き世代向けの「職場まるごと健康宣言」で、いろんな教室を実施されているということでしたので、食育推進関係の実施機関とも連携したいと個人的に感じました。

〈松井委員〉

委託している事業もあり、自前ならやりやすい連携も、委託となると難しい部分もあるのでこれから考えていきたいと思います。

〈富岡委員〉

協会けんぽ様の健康講座のいろんなオプションの中で食育に関することは、よく選ばれるのでしょうか。働き盛り世代は食のことに對し優先順位がちょっと低いと感じています。

〈松井委員〉

項目は15項目のうち3つが食に関することですが、会社が選ばれるのはメンタルヘルスが多いと感じます。

〈富岡委員〉

自分の歯で噛んで、栄養があるものを一生食べ続けるためには、歯の健康のことも大事なので、働き盛り世代には、食のことや歯のことに對し、関心を持ってもらいたいと産業医としても日々実感しているところで、岡本先生には、どうすれば働き盛り世代に歯の関心を持っ

てもらえるかお聞きしたいです。

あともう一点、災害時非常用食料に関して、近畿の値となると和歌山県は南海トラフの備えがあり、危機感のある県民と思われるので、そうすると奈良県の値はもっと悪いのではないかと感じています。大規模調査年は都道府県別に集計がされるので、令和6年の大規模調査ではいかがでしょうか。

〈事務局〉

大規模調査でないと都道府県比較ができないためブロック別に集計されていると理解しています。昨年度の大規模調査について、調査票自体が毎年変わっている部分で、災害の部分は昨年度調査項目から抜けているので、全国値で比較することは難しく、令和元年の値で確認します。

上地先生からご質問があった朝食欠食について、コロナ前の数値で、第3期食育推進計画のときに評価したデータで、平成28年度が0.9%、29年度が0.8%、30年度と令和元年度が1.1%で、令和2年度は調査がなく、令和3年度が1.3%、4年度が1.5%と、少しずつ上がっている状況です。

〈上地議長〉

朝食欠食はどちらにしても、上がってきつつあることがわかりますね。

〈細見委員〉

ならコープでは、3年ほど前より五條市の阿太地区において、耕作放棄地を利用し、さつまいも、とうもろこし、白菜などの作物を育てる活動をしております。組合員さんを農場応援隊ということで募集しまして、作付けから草引き、手入れ、収穫まで農業を通して自分たちの育てた作物を食することで、食べる大切さの理解につなげています。こどもの食育は大事なので、こどもが種のところ、苗のところから関わることで、食べるものに対しても思い出とか、嫌いだったものを自分が育てたので、食べられるようになったとか、そういうことがとても大切だと思っておりますので、ならコープの取り組みを紹介しました。

〈松田委員〉

事業所の健康教室をやっても、食に対する講座の希望が少ないという話に関連して、栄養士会では県と一緒に適切なお弁当を提供する事業者を増やしています。働き盛り世代に配食されているお弁当屋さんに聞いたところ、がつつり弁当が好まれるし、なかなか減塩とか野菜をたっぷりのお弁当を好まないの、売れないという話があります。栄養士会としてもそういったお弁当屋さんを増やしていきたいのですが、相手方の需要が少ないので、行き詰まっています。事業所の健康教室で関わった際には、メンタルと昔はたばこ対策が多く、食にあまり意識がないので、栄養士会としても働き盛り世代の方々に意識づけをしていくことが課題と感じております。

〈山下委員〉

我々日常は医療機関で、特定健診などを行いながら、健康管理に協力しているのですが、特定健診が導入された頃に比べると、明らかにメタボリック症候群という言葉が使われる頻

度が減っていると感じます。最近では、腎臓病のCKDという言葉や、奈良宣言が出したCLDという肝臓の疾患が関心の中心で、指導をする場合も食事指導が一番大切ですが、栄養士のように専門家ではないので、言ったときは聞いてくれるが長続きしない。一時的に2、3ヶ月は続いても、それ以上は続かないと日頃我々が感じているところです。奈良県で色々な取組のパンフレットがあればぜひ利用させていただきたい。医療機関に配っていただければ、健診に来られた方に配って助言の1つにしたいと思いました。

〈事務局〉（健康推進課 倉本係長）

特定健診に特化した保健指導の食事に関するパンフレットは県で作成していません。保健指導に携わる市町村が、対象者に応じたアドバイスを実施する際にツール等は使っていると聞いているのですが、県で一律作成しているものはないので、特定健診等を所管する医療保険課ともまた協議させていただきます。

〈西村委員〉

私どもの食育という部分で考えますとどうしても、今自分たちでやっている部分は、子供たちへの取り組みばかりで、先ほどの働き盛り世代、現役世代の対応の部分は不足していると課題として感じた次第です。先ほどの数値の指標の話で、定量評価しにくい部分もあり、自己満足で終わっている部分もあり反省も踏まえつつ、成果を求めていくのは非常に難しい部分でもあるが、今後の課題として取り組みたいと感じています。

〈上地議長〉

評価につきましては先生方にもお尋ねいただけたらと思います。

〈白樫委員〉

うちの団体は基本的に保育園、こども園の事業者が加盟している団体です。年に職員対象に1回食育の研修を行っており、毎年100名ぐらいの方が参加されております。子供たちには、野菜の栽培、食に興味を持ってもらう取り組みはしていますが、子供だけでなくご家族に対してアピールしていきたいと思っています。ご家族の方が、働きながら保育園にお預けされているので、子供たちとお話をしながら、食育として取り組んでいく時間に追われていると感じています。先ほど朝食を抜く話で、当団体では嗜好調査を毎年1回しているのですが、アンケートでは朝食を食べていると結果が出るのに対し、朝の子供たちに聞くと、食べてきていない子供たちが結構多くて、活動にも響きますので、きっかけを作るような取り組みとして、保育園で人気のあるレシピを紹介するなど、地道にやることが、保護者の方にも繋がると感じています。

〈上地議長〉

確かにアンケートだと、理想的な回答が出る人が多いですけど、毎日お尋ねされているので実態が見えておられると思いました。

〈岡本委員〉

食べるという意味では、口腔機能が大事で虫歯を治していただくのが大事です。歯周病健診や、学校にいる間、高校生までは毎年歯科検診ありますが、その後は検診がない。市町村で

は、後期高齢者 75 歳、80 歳の検診とかはありますが、全員が参加するわけではないので、年に 1 回は口のチェックも兼ねて歯科受診していただきたい。

〈上地議長〉

本当はパンフレットとかでもあればいいのでしょうか。継続して自主的に歯科医師にかかるのは大事ですね。

〈岡本委員〉

大事です。学校健診でも、去年むし歯 10 本あると言っても、次の健診時も 10 本ある方がいます。パンフレットがあっても親御さんすら関心ないので、難しいと感じます。全体的に学校のむし歯が減っているのは、意識の高い人が増えているのと、フッ化物入り歯磨き粉が結構普及しているからと考えています。

〈上地議長〉

数多くの事業で充実した内容になっていますが、いくつか課題が出ていました。課題を打開するために、連携が必要と思うものもあったので今後ともどうぞよろしくお願いします。

〈事務局〉

(資料 2-2 を用いて県関係各課説明)

〈上地議長〉

ただいまのご説明に関しまして、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

Y o u T u b e は、私も見させていただきました。再生回数はどの程度ですか。

〈事務局〉 (健康推進課 西)

6 月 9 日現在で 9,700 回位です。

〈上地議長〉

安全安心認証を受けたこども食堂の 21 団体について、どのような内容ですか。また、こども食堂によく高齢者の方も来る状況をテレビで知ったのですが、その連携もありますか。

〈事務局〉

まず 1 個目の安全安心認証制度は認知度が低く、消毒や保険等経費の補助上限が 4 万円です。去年はメリットを感じられないとご意見があり、50 万円ほどのふるさと納税を活用して認証団体にのぼりや調味料とか 1 万円から 1 万 5000 円程度を、認証団体に補助しています。高齢者の方との交流では、子供の貧困対策ということからこども食堂は始まったのですが、もっと地域の居場所づくり、あるいは交流と、幅広く取り組みたいと考えており、地域包括ケア、地域福祉課と、庁内関係課と情報共有しながら取り組んでいきます。こども食堂は自主的な取り組みですから、始めたいという声をコーディネーターへつなぎ、ひろがっていけばと考えております。

〈上地議長〉

資料の 1-2 の中で、「地域等で共食している人の割合」を増やそうとしたら、どういう手段があるのでしょうか。こども食堂に例えば高齢者の方が調理でボランティアに来るなど連携することで、「地域等で共食している人の割合」が増えていくのではと思っています。

〈事務局〉（健康推進課 西）

地域との共食について、地域に絞ったのは、厚生労働省の健康日本 21 の考え方で、現在市町村等で行われている自由な通いの場等は社会的に不利な人への効果が期待しづらいところもあり、友人・知人を除いて特に地域に絞って設定した背景があります。健康日本 21 の中でも、共食している人の増加は社会環境の質の向上へつながっているため、地域に重きを置かれていると考えています。具体的な取り組みでは、国のアクションプランで、例えば地域の共食マップ、先ほどこども食堂の紹介がありましたが、可視化されたり、共食する場自体が増えたりすることが大切だと書かれているので、そのような取り組みが必要と考えております。

③ その他

〈上地議長〉

最後に、その他、昨年ご意見いただきました食環境整備について、事務局から情報提供があるということですので、よろしくお願いいたします。

〈事務局〉

（参考資料を用いて事務局より説明）

〈上地議長〉

食環境整備は、年齢、性別、経済状況、健康への関心度などによらず、誰もが自然に健康になれる食環境整備を目指すことなので、ライフスタイルが多様化する中、いろんな経済状況の方もいらっしゃいますし、誰もが自然に健康になれるような食環境整備として、ぜひ奈良県らしい組織体制を作っていただけたらと私個人は思います。こども食堂の問題、またフードバンクのことも気になっています。また、「ゆっくりよく噛んで食べる人の割合」、学校給食の準備の時間とか喫食時間の問題等様々ありますので、食育推進として前に進めるようにと思っています。引き続きの取り組みどうぞよろしくお願いいたします。

〈事務局〉

事務局より事務連絡を行い会議終了。